

第 7 5 回 二 上 山

昭和60年10月10日（木）

近鉄京都駅 — 檀原神宮前駅 — 当麻寺駅 —15分— 当麻寺
846 936 950 1010

—30分— 祐泉寺 —25分— 岩屋峠 —15分— 展望台 —50分—

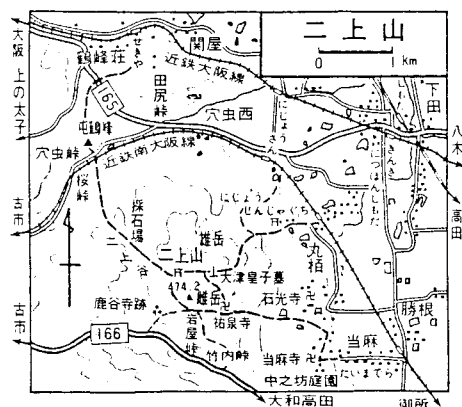
鞍部 —15分— 雄岳 —15分— 鞍部 —20分— 二上谷下降・

採石場 —30分— 屯鶴峰 —50分— 関谷駅 — 八木駅

「時雨ふる二上山を見渡せば梢もあけに染めてけるかな」行家」など、数多くの古歌でも知られた二上山は金剛生駒国定公園の異色ある存在。大阪をめぐる山々のうち唯一の死火山である。凝灰岩が主部を占めているが、別名を松香石といい、古くから石棺や社寺の用材に使われ、この方面でも大きい役割りを果している。山頂は二峰に分かれ、雄岳は五一七・二、雌岳は四七四・二、子供でも登れる低山だが、前述のように地質学徒にとつては貴重な資料の山。山麓に散在する古跡と結んで、軽いトレッキングにはふさわしい山だといえる。

登路はたくさんあるが、奈良県側の当麻寺から登るのが一般的。当麻寺駅で下車、西の突きあたりにある当麻寺に詣で、北門を出て韋堂、大池、祐泉寺を経て山頂を踏む。道は祐泉寺から左右二本に分かれるが、右をとれば雄岳と雌岳の鞍部に、左をとれば中将姫伝説の岩屋峠に登り着く。展望は二峰ともに恵まれ、奈良平野が大観される。雌岳には三角点、雄岳には葛木二上神社と大津皇子の墓がある。

降路は二峰の鞍部から二上谷を下り、屯鶴峰に歩を延ばそう。二上谷はかつて金剛砂の採掘が盛んだったところ。今も近くの穴虫では金剛砂産額日本一を誇っている。屯鶴峰は灰白色の凝灰岩が四方坪にわたって集積する奇勝で、二上山から噴出した火山灰、火山砂、火山礫等が堆積したもの。遠望すると白い鶴が屯した形に見えるところからその名がある。



●屯鶴峰 二上山が第三紀末期に噴出した時に噴出した灰が湖底に堆積し、厚い凝灰岩層を形成。その後、隆起した湖底が陸地となり流水の浸食により現在の奇観を形成したといわれている。

●金剛砂 金剛砂のもとにはザクロ石。二上山周辺はわが国第一の産出地といわれ、研磨機として使われている。

屯鶴峰からは北端にある展望台を経て小道を右に折れ、急な斜面を下って国道165号線を横切り、すぐ右に折れて雄木の小山を越え、鶴峰荘の住宅地を過ぎ、近鉄関屋駅に着く。